

# 『放課後のおと』

作：佐藤剛史

〈登場人物〉

- ・片桐 真由子 (高校三年生)
- ・望月 佳菜絵 (高校二年生)
- ・伊東 久美香 (高校二年生)
- ・風間 優里 (高校二年生)
- ・小島 怜美 (高校一年生)
- ・兵藤 未来 (高校一年生)
- ・橋本 みゆき (高校三年生)

〈一場〉

火曜日。放課後の音。

演劇部の部室。

佳菜絵が未来(みく)を連れてやってくる。

佳菜絵 で、ここが部室ね。

未来 はい。

佳菜絵 実際の練習は体育館とか選択教室を借りるんだけど、バスケ部や軽音とやりくりだから希望通りには押さえられなくて。狭いけどここだけは演劇部専用の部屋。

未来 はい。

佳菜絵 今は二週間後の文化祭の練習で変則的だけど、通常は火木の放課後に部活はやってます。あとは必要に応じて、役者は抜き稽古したり、スタッフは作業したり、その時その時で臨機応変にやってる感じかな。

未来 はい。

優里がやってくる。

優里 おはようございます。

佳菜絵 あ、優里。先生が言っていた新入部員。

未来 見学です。

佳菜絵 ああ、見学の子。

優里 二年生の風間優里です。

未来 一年の兵藤未来です。

佳菜絵 部員は三年生が一人、二年生が三人、一年生が一人の計五人。弱小なんで新入部員は大歓迎なんだけど・・・  
未来 ・考えてみます。

佳菜絵 本当？ 今日は見学だけど、一緒に基礎練習とかに参加し  
ない？

未来 え？

優里 ちよつと体動かすだけだけど。

佳菜絵 大丈夫。私みたいなのでできるから。

未来 はあ・

優里 返事に困ってるよ。

佳菜絵 あ、ごめん。無理強いはしないけど、人数少ないから見  
るだけだとつまんないかなって

優里 「つまんない」は言っちゃ

佳菜絵 見るだけでも、すっごい楽しいよ。

優里 ちよつとキツイって思ったら休めばいいからさ。

佳菜絵 そうそう。

優里 見学だし。

佳菜絵 そうそう。

未来 あ、はい。

佳菜絵 やったあ！ 着替えとか持ってる？

未来 一応、

佳菜絵 じゃあ更衣室。先に行ってくるね。

優里 うん。

佳菜絵と未来は去る。

一人残る優里。

優里は棚からノートを取り出して開いている。

真由子が来る。

真由子 おはよう。

優里 おはようございます。

真由子 今日、新入部員が

優里 見学の子が来てます。

真由子 ああ、見学ね。どこ？

優里 佳菜絵が更衣室に連れて行きました。

真由子 じゃあ、一緒にやるって？

優里 見学ですけど。

真由子 ああ、そう。

優里 この時期に見学って、何でしょうね？

真由子 吹奏楽部、辞めたらしいよ。

優里 あそこ厳しいですもんね。

真由子 うん、まあね。

優里 うちと違って大所帯ですし。

真由子 うらやましい。

優里 こういうアットホームな部活の方が合ってるかもしれない  
ね。

真由子 そんな感じだった？

優里 いや、おとなしいっていうか・・

真由子 まだわかんないか。初めはみんな猫かぶってて

怜美が来る。

怜美 おはようございます！

真由子 おはよう。もう着替えてるの？

怜美 当たり前です。今日はどこですか？

真由子 体育館のステージ。

怜美 じゃあ、先に行って場所作ってます！

怜美は去る。

真由子 相変わらず元気ね。

優里 はい。

真由子 あの子は初めっから、あれだよね。

優里 そうでしたね。

真由子 優里は初めはほとんどしゃべらなかつたもんね。

優里 すいません。

真由子 正直「なんでここに来たの？」って思っちゃった。

優里 だから、あれは

真由子 少しは変わった？ 自分。

優里 ・前よりしゃべれるようになりました。

真由子 そうだね。でも、後輩も入ってきたんだから、本当はもつ  
としっかりしてほしいんだよね。

優里 努力します。

真由子 うん。今回も、人足りないから役者もやってもらって悪  
いな、とは思うよ。部員がもつといれば希望通りスタツフ専任  
でやってもらえるんだけど。

優里 そんな。

真由子 でも、これをいい経験にして、私の引退後の部活を支えて  
いってほしいのよ。

優里 はい。頑張ります。

真由子 うん。・・・久美香は？

優里 さあ。

真由子 あの子もちゃんとしてほしいわよね。

優里 でも、久美香は演技できるし。

真由子 だからって遅刻してきちゃ困るでしょ。最近多くない？

優里 ちよっとした遅刻がちよいちよい・・

真由子 そこそこ出来てる気になってるから、あの子は伸び悩むのよね。

優里 でも、あれだけできれば

真由子 久美香、「プロになる」って言ってるんでしょ？

優里 ええ、時々言ってます。

真由子 だったらもっとやってもらわないと。

優里 はい。

真由子 一年生も入ったんだし。あれじゃあお手本にならないじゃない。今度の舞台の主役でもあるわけだからさ。

優里 はい。

真由子 って、優里に向かって言うことじゃないか。

佳菜絵と未来が戻ってくる。

佳菜絵 先輩。あの、

真由子 その子？

未来 見学に来ました、一年の兵藤未来です。

真由子 三年で部長の片桐真由子です。

未来 よろしくお願います。

真由子 ちゃんと来てくれてよかった。

未来 え？

真由子 青島先生の情報、時々当てにならないじゃない。

優里 ああ、「スポットあるある事件」とか。

真由子 そう。

佳菜絵 「スポットあるある事件」っていうのはね、今年の三月に文化会館の照明機材を新しくするんで、古いスポットをもらえなくて話があつて。

優里 青島先生が「スポットあるぞ、あるぞ」って散々言ってる。

真由子 で、蓋を開けたら、別のホールで使うんだって。

優里 先生は謝ってましたけどね。

真由子 一回喜ばせておいてから落とされる方がショックは大きい

んだよ。

佳菜絵 先輩、見学者いるんで。

真由子 そんなちよつと頼りない顧問の先生の情報だったから心配  
だったけど、来てくれてよかった。ありがとう。

未来 いえいえ・・

真由子 そういえば佳菜絵。

佳菜絵 はい。

真由子 久美香知らない？

佳菜絵 え？ ああ、補習で遅くなるって。

真由子 ほんと？ まあ、補習ならいいんだけど。最近あの子

久美香が来る。

真由子 あ。久美香、早かったわね。

久美香 え？ 早く来ちゃダメですか？

真由子 ダメとは言わないけど。補習だったんじゃ。

久美香 いえ、補習なんかいいですよ。

真由子 え？ (佳菜絵を見る)

佳菜絵 ・・・

優里 じゃあ、着替えて体育館行きましょうか。

佳菜絵 それが、体育館使えなくって。

真由子 え？ なんで？

佳菜絵 バスケがインターハイに出ることになって。

真由子 だったらコート使って、ステージは使わないでしょ。

佳菜絵 コート予定だったバレエ部が押し流されて。

真由子 ところでんかよ。

久美香 なんにせよ、運動部優先か。

佳菜絵 まあ、体育館だしね。

真由子 じゃあ、土手行って発声練習するか。

未来 え？

佳菜絵 困った時は河川敷行くんだ。

久美香 あ、その子？

優里 見学の

怜美が戻ってくる。

怜美 先輩！ 体育館使えません。

佳菜絵 ごめん。

真由子 土手行くから。  
怜美 あ、新入部員？  
未来 いえ、まだ  
怜美 おんなじ一年生の小島怜美です。  
未来 はい。兵藤未来です。  
怜美 じゃあ、今日はどこでやるんですか？  
久美香 だから土手だって。

場面転換。

## 〈二場〉

誰もいない部室。  
久美香が足早にやってくる。鞆に台本を仕舞ったり。  
少し遅れて真由子が来る。

真由子 久美香。

久美香 ・ ・ ・

真由子 ちゃんと話を聞きなさいよ。

久美香 私はちゃんとやっています。

真由子 やった気になっただけじゃダメなの。

久美香 「やった気」じゃないです。立ち位置や視線の向きも意識  
できてます。台詞はまだしっくりと来てませんが、ちゃんと咬  
まずに言えています。何で私ばかり言うんですか？ 優里の方  
が全然できてないじゃないですか。

優里が来る。

真由子 優里はまだ役者に慣れてないから。

久美香 慣れてなくても同じ舞台に立つんです。だったら関係ない  
じゃないですか。

真由子 優里にも課題は与えてる。あの子はあの子なりに頑張っ  
てもらうしかない。でも久美香は場面の中心なんだから要求が細  
かくなるのは仕方ないじゃない。それは久美香だってわかって  
るでしょ。さっきも言ったように、久美香が思ってるようには  
お客さん側には見えてないの。

久美香 ・ ・ ・

佳菜絵、未来、怜美がくる。

真由子 それは自意識が強くなってきてるからで、そういう時こそ外から見ている人の意見を

久美香 今日は帰ります。

真由子 久美香・

久美香は部室を出る。  
間。

佳菜絵 ・・ちよっと行ってきます。

佳菜絵は久美香の後を追う。

真由子 ・・ごめんね。

怜美 青春ですな。

真由子 え？

怜美 いい物を創ろうっていう情熱があふれてるんですよ。

真由子 言い方によつては、ね。

怜美 だって久美香先輩、普通にうまいじゃないですか。ねえ。

未来 あ、はい。

怜美 なのに、まだ上を要求するって、すごいレベル高いっていうか。部長も、よく久美香先輩の演技のダメなところわかりますよね。

真由子 うん。まあ。

怜美 横で聞いてて、何が問題になってるのか全然わかんないんですけど、先輩たちがすごい真剣で。すごいです。わあ。ねえ。

未来 あ、うん。

真由子 あのさ。

怜美 はい。

真由子 今日はこれで部活は終わりにするから。もう帰って大丈夫だから。

怜美 すいません。

優里 佳菜絵たちは？

真由子 戻ってきたら話しておく。みんなは心配しないで。

怜美・未来 はい。

優里、未来、怜美は荷物をまとめて、あいさつしながら帰る。



真由子は部屋を片付けてから一旦部屋を出る。  
少しの時間経過。放課後の音。  
みゆきが来る。

みゆき あれ？・・

佳菜絵と久美香が話しながらもどつて来る。

久美香 私が悪いの？

佳菜絵 言い方ってのがあつてのがあるでしょ。あんな感情的に

久美香 だって、あ。

みゆき おつかれさま。

佳菜絵・久美香 おつかれさまです。

みゆき・・何かあつたの？

久美香・・

佳菜絵 久美香が真由子先輩からダメ出しもらつて、それで・・

久美香 私ばかり言われるんですよ。

佳菜絵 そりゃあ久美香が主役なんだから。

久美香 不公平です。

みゆき 何を言われたの？

久美香・・「自意識」とかのことですけど。

みゆき ああ、久美香はそうだよね。一生懸命やるほど周りが見えなくなつちやうから。

久美香 違ふんです。今までよりも意識できるようになってきてて、

ちやんと周りも見えるようになってきてるんですよ。

佳菜絵 いや、私も久美香は成長したなつて思うよ。

久美香 でしょ。成長してるでしょ。

佳菜絵 でも、先輩のダメ出し聞いてると、まだ成長途中なんだなつてのもわかる。

久美香 そんなの本人だつてわかつてるよ。だからそれをわざわざ細かく言わなかつたつて、いいつて。

みゆき 真由子は久美香に期待してるんだよ。

久美香 そうですか？

みゆき 杏文（あずみ）先輩の通つてる大学に行きたいつて、言つてたじゃない。

久美香 まあ、そう言つたことはありますけど。

佳菜絵 今でも第一志望です。

久美香 ころ。

みゆき プロの役者になりたいって。

久美香 はい。

みゆき 真由子も演出やって困った時は、杏文先輩に相談するのとあるって。

久美香 え。

みゆき 先輩もきっと久美香に期待してると思うよ。

久美香 そうですか？

みゆき うん。「私があの子を鍛えたかった」って言ってたから。真由子を通してアドバイス来てるんじゃないかな。

久美香 そうですか。

みゆき だからもっと真由子を信じてあげて。

久美香 はい。

真由子が戻ってくる。

真由子 ……みゆき。

みゆき ちょっと時間あったからのぞいた。

真由子 久美香。あの、さっきは

久美香 真由子先輩。さっきは少し感情的になりました。

真由子 え？ そう？

久美香 期待に応えられるよう頑張ります。

真由子 あ、よろしく。

久美香 では、お先に失礼します。

久美香は去る。

佳菜絵 わかんないな。

真由子 ありがとうね。

佳菜絵 いえ、私は。みゆき先輩が

みゆき 私も何が久美香の琴線に触れたのか

佳菜絵 杏文先輩のことじゃないですか？

みゆき かなあ。

真由子 あの子は杏文先輩に憧れてるものね。

佳菜絵 真由子先輩も杏文先輩によく相談してるんですね。

真由子 え？

みゆき あ、私、そう言っちゃった。

真由子 おい。

みゆき ごめん。

真由子 ・今晚久しぶりに連絡取ってみようかな。  
佳菜絵 え。  
真由子 佳菜絵もありがとう。  
佳菜絵 はい。・・・じゃあ、お先に失礼します。

佳菜絵は去る。

真由子 別に来てくれてもいいけどさ。  
みゆき やっぱり気になるし、さ。  
真由子 だったらもつと来いよ。  
みゆき ごめん。  
真由子 まあ、もつと来れるんだったらやめてないか。  
みゆき ・・・裏切者って思ってる？  
真由子 ・・・そうだね。  
みゆき だよ。自分勝手だよね。  
真由子 でも家の事情でしょ。みゆきが家事やって弟と妹の面倒み  
なきや  
みゆき ごめん。部活に家の事情を持ち込んだじゃって。  
真由子 何だよ、それ。サラリーマンの言い訳か？  
みゆき 変か？

二人は少し笑う。

真由子 ・・・進学はするんだよね？  
みゆき ・・・わかんない。  
真由子 え？ なんて？  
みゆき 来週、親族会議があるんだ。  
真由子 親族会議？  
みゆき 今はお母さんがおばあちゃんの介護行ってるけど、おばさ  
んたちも関係することだし。  
真由子 大変なんだ。  
みゆき 大変な時に、あんまりわがまま言えないよ。  
真由子 自分の人生でしょ。  
みゆき 自分一人で生きてないし。  
真由子 そうだけど。  
みゆき 高校生じゃあ、まだいろんな人の世話にならないといけな  
いんだな。  
真由子 でも、あと数年で自分で働けるようになるから

みゆき その数年を早めるかどうか、っていう話もしなきゃだ  
と思う。

真由子 え・・

みゆき 親族会議で。

真由子 ・・

場面転換。

### 〈三場〉

水曜日。

部室に怜美がいる。

未来が来る。

怜美 おはよう。

未来 おはようございます。

怜美 タメでいいよ。

未来 はい。

怜美 おはよう。

未来 おはよう・・

二人は笑う。

怜美 ねえ、昨日すごかったよね。

未来 え？

怜美 真由子先輩と久美香先輩。

未来 ああ。

怜美 感動しなかった？

未来 ・ちよつとびつくりしちゃった。

怜美 びつくりするよね。中学の演劇部とは全然レベル違うし。

未来 小島さん、中学でも演劇部だったの？

怜美 うん。兵藤さんは中学も吹部？

未来 ・・うん。

怜美 あ、ごめん。

未来 ・・聞いてる？

怜美 何を？

未来 高校の吹部のこと。

怜美 あ・・うん。

未来 どうな？

怜美 いや

未来 知りたいの。

怜美 ・・千秋に聞いたんだけど・

未来 うん。

怜美 なんか、先輩に反抗して・・とか？

未来 ・・それだけ？

怜美 何に反抗したかは聞いてない。

未来 ・私のこと、どう思われているのかってこと。

怜美 ・・千秋には、私から聞いたって言わないですよ。

未来 言わない。

怜美 生意気だって先輩たちは言ってるらしくって。千秋たち一年

も、なんかそんな感じだって・・

未来 うん。

怜美 言わないですよ。

未来 小島さんも私が聞いてたってこと言わないですよ。

怜美 うん。・・それで吹部やめてこっち入ったの？

未来 まだ見学だけど

怜美 ああ。でも、見学に来たってことは、一応興味はあったって  
ことですよ。私は新歓の教室公演見て入ったんだけど、あの時  
兵藤さんも見てたの？

未来 見てない。

怜美 じゃあ、練習してるの見て？

未来 ・放課後、やってるの全然見かけなかったから。

怜美 え？

未来 どこでやってるかわからなかったし

怜美 うん。

未来 ・・部室が音楽室から一番遠かったから。

怜美 ・・

未来 おかしい？

怜美 いやあ・・

未来 おかしいよね。

佳菜絵 来る。

佳菜絵 あ、二人とも来てくれたんだ。

怜美 はい。

佳菜絵 今日の部活、真由子先輩が遅れるってことで、一年生には

ちよつと作業を手伝ってもらいたいんだけど。

怜美 はい。

佳菜絵 兵藤さんは？・・

未来 大丈夫です。

佳菜絵 ありがとう。選択教室の方、いいかな？

怜美・未来 はい。

三人は去る。

少しの時間経過。放課後の音。

久美香がやってくる。棚からノートを取り出して読んでいる。

優里が来る。

久美香 おはよう。

優里 おはよう。

間。

優里 あの・・

久美香 ん？

優里 ごめん。私が足引っ張っちゃって。

久美香 本当だよ。

優里 ごめん・・

久美香 別にいいよ。優里はさ、裏方やりたくって劇部に入ったんでしょ。

優里 うん。

久美香 それなのに、役者やらされてるんだもん。しょうがないよ。

優里 だって、人いないし。

久美香 一年も入ったんだから、役者変わってもらってもいいのに。

怜美、やりたそうだしさ。

優里 いいよ。

久美香 遠慮すんな。何なら私から言っところか？

優里 いいってば。

久美香 昨日の今日だし、私の言うことじゃ真由子先輩聴いてくれないか。

優里 そんなことないだろうけど・・

久美香 佳菜絵に言ってもらったら。

優里 だから、いいってば。

久美香 だって、役者嫌でしょ。

優里 嫌じゃないよ。  
久美香 ・ ・ ・ じゃあ、やりたいの？  
優里 ・ ・ ・ なんかさ、役者も面白いかなって思いだしてきて、さ。  
久美香 ・ ・ ・  
優里 四月の教室公演より、出番が多くって。で、セリフ覚えるのは大変だけど、しゃべっていると自分だけ自分じゃない不思議な感じで。声出すと段々気持ち乗ってきて  
久美香 だったらちゃんとやりなよ。  
優里 え？  
久美香 嫌じゃないんなら、自信無さげに台詞言ったり、中途半端に動いてやめたりしないで、ちゃんとやりな。  
優里 ・ ・ ・ うん。

佳菜絵 来る。

佳菜絵 ・ ・ ・ どうした？  
久美香 ・ ・ ・ ダメ出しの続き。  
佳菜絵 先輩来てるの？  
久美香 まだ。  
佳菜絵 ん？

久美香は出ていく。

佳菜絵 ダメ出し？  
優里 私、役者やらない方がいい？  
佳菜絵 え？ そんなことないよ。 ・ ・ ・ 久美香からのダメ出し？  
優里 中途半端なんだ。  
佳菜絵 何が？  
優里 何もかもが。  
佳菜絵 何もかもは大げさでしょ？  
優里 大げさじゃないよ。

優里も出ていく。

佳菜絵 え？

一人残った佳菜絵。  
間。

机の上のノートを手に取り開く。  
声を出して読みだす。

佳菜絵 「感情を作ろうとするな。私たちにできるのは、湧き出た感情を流す川を作ることと、押し寄せる感情の波に船を浮かべることだ。そして沈没しないように、船の操縦方法を手に入れろ。それが基礎練習をするということだ、後輩諸君。ry あずみ」

読んでいる間に未来が来ている。

未来は佳菜絵を見ている。

未来がいることに気づく佳菜絵。

佳菜絵 わ！

未来 すいません。

佳菜絵 いや、どうした？

未来 新聞紙、切り終わりました。

佳菜絵 あ、わかった。行く。

未来 演技の練習ですか？

佳菜絵 あ、これはね「放課後ノート」っていうんだ。

未来 「放課後ノート」。

佳菜絵 何か格言っぽいことを思いついた先輩が、「劇部語録」って言って書き始めたのが最初なんだって。

未来 へえ。

佳菜絵 大体、部長とか演出とかが書き残していくんだけど。

未来 部活の伝統なんですね。

佳菜絵 いや、それほど部活に生かしてるわけじゃないんだ。その言葉が出てきた背景っていうか、その時先輩たちが体験した部活の状況がわからないとね。

未来 そうですね。

佳菜絵 でも、結構いいこと言ってるような気がするからさ。時々私はこうやって声に出して読んでみるんだ。そうすると落ち込んでたのが、少し浮いてくる。

未来 先輩、落ち込んでたんですか？

佳菜絵 え？ いや・・・そうなのか。

未来 この「by あずみ」っていうのは？

佳菜絵 私たちの二こ上の先輩。最後に署名するんだ。

未来 望月先輩のもあるんですか？

佳菜絵 ん？ あ、私？ 私はまだ。書けるほどの蓄積が無いから。



未来 部長さんののは？  
佳菜絵 真由子先輩の学年は、みゆき先輩が書いてたからな。今度の公演終わったら書くんじゃないかな。  
未来 そうですか。  
佳菜絵 どう？ 演劇部に興味出てきた？  
未来 雰囲気はいいなって思います。  
佳菜絵 本当？ よかった。  
未来 まだ、見学ですけど。  
佳菜絵 うん。どんどん見学してって。

怜美が来る。

怜美 あ、いた。  
未来 ごめんなさい。  
怜美 いいよ。  
佳菜絵 切り終わったんだよね。  
怜美 はい。なかなか帰ってこないから。  
未来 ごめんなさい。  
怜美 いいって。  
佳菜絵 次は、どうしよう。切った新聞紙を貼れたらいいんだけど。  
怜美 いいですよ。  
佳菜絵 じゃあ、着替えた方がいいね。兵藤さんも貼るの・・・見学する？  
未来 いいですよ、貼るの手伝っても。  
佳菜絵 本当？ やった。  
怜美 いいの？  
未来 いいよ。  
佳菜絵 本人がいいって言うてるんだから。今日の怜美、いつもとノリが違うよ。なんかあった？  
怜美 いえ。何もないですよ。  
佳菜絵 そう？ じゃあ、二人とも着替えて選択教室行って。私、ボンドと刷毛持って行くから。  
怜美・未来 はい。

二人は着替えを持って部室を出ていく。  
残った佳菜絵は柵からボンドなどを探して揃えている。  
久美香が戻ってくる。

佳菜絵 久美香。  
久美香 紙貼り？  
佳菜絵 うん。  
久美香 選択教室？  
佳菜絵 うん。  
久美香 行った方がいい？  
佳菜絵 今、一年二人でやってもらってた。  
久美香 そう。

間。

佳菜絵 優里に、ダメ出しした？  
久美香 した。  
佳菜絵 何て？  
久美香 「ちゃんとやりな」って。  
佳菜絵 優里、ちゃんとやってないかな？  
久美香 セリフ言うのにいっぱいいいじゃん。  
佳菜絵 そりゃあ慣れてないから。  
久美香 でも役者やりたいんなら、もっとやれることあるでしょ。  
佳菜絵 やりたいってわけじゃ  
久美香 やりたいんだよ。「やりたい」って言った。  
佳菜絵 優里が？  
久美香 うん。だから「やりたいなら、ちゃんとやれ」って。  
佳菜絵 そうか。でも優里はああいう子だから、言い方も少しは  
久美香 気を遣ったら  
佳菜絵 佳菜絵は気を遣い過ぎだよ。  
久美香 そうかな。  
久美香 そうだよ。私のことも「補習」って言ったでしょ。  
佳菜絵 え？  
久美香 昨日。  
佳菜絵 ああ・・  
久美香 すぐバレる嘘ついて、何になるの？  
佳菜絵 だって、真由子先輩に何て言えばいいかって。  
久美香 「萩原たちとつるんです」って言えばいいじゃん。  
佳菜絵 でも  
久美香 「声優サークル始めるみたいですよ」って。  
佳菜絵 いいの？ それで？  
久美香 佳菜絵が悩むことじゃないでしょ。

佳菜絵　でもそれで久美香が劇部やめちゃったら。

久美香　嘘つけば、やめないとも思った？

佳菜絵　思わないけど・・

久美香　・・行かないよ。

佳菜絵　え？

久美香　あっちは抜けた。

佳菜絵　だってあっちの方がプロ志向でって

久美香　そう言ってたけど、違った。そういう話はするけど、みんな夢物語になっただけ。

佳菜絵　でも、久美香の夢は

久美香　夢語ってる時間があったら、稽古したいんだよね、私は。

佳菜絵　そうか。

久美香　優里見てたら、そんな事思い出して。

佳菜絵　え？

久美香　「やりたい」って言うのに、悩んで動き出せない。

悩んでる時間があったら、動けよって。「下手だから」って尻込みするなら、「やりたい」なんて言うなよって。

佳菜絵　うん。

久美香　そう思ったら、口から出た。

佳菜絵　そうか。

久美香　着替えたら、選択教室行くから。

着替えを持って久美香は去る。

佳菜絵も荷物をまとめて去る。

誰もいなくなった部室。

そつと優里が入ってきて、自分の鞆を持って去る。

場面転換。

#### 〈四場〉

金曜日。

雨の音。

部室では、真由子が机に向かって何かを書いている。

校内放送が聞こえる。

校内放送　「この後、大雨警報が出されることが予想されます。」

真由子　警報かあ。

校内放送　「部活は終了し、速やかに帰宅の準備をしてください。」

真由子 はいはい。  
校内放送 「はい。そこ！」  
真由子 どこ？  
校内放送 「机に向かって落書きしている、君！」  
真由子 落書きじゃねえよ。  
校内放送 「速やかに帰宅の準備をしてください。」  
真由子 はいはい。(書き続ける)  
校内放送 「聞こえてる？」  
真由子 聞こえてるって。  
校内放送 「以上。放送部、安藤でした」  
真由子 ご苦労さま。

校内放送終わる。  
怜美がバケツを持ってやってくる。

怜美 借りてきました。  
真由子 ありがとう。

怜美は雨漏り箇所を確認しながらバケツを置く。

怜美 雨漏りなんて、テレビでしか見たことないです。  
真由子 この校舎、古いからね。  
怜美 文化祭のパンフレットですか？  
真由子 そう。あらすじと観劇ポイント書けて。  
怜美 大変ですね。  
真由子 もっと早く言ってくればいいのに。今日締め切りって、今日言われるって、信じられないよね。  
怜美 青島先生ですか。  
真由子 そう。「悪い、うっかりしてて」って。  
怜美 先生に書いてもらえばいいじゃないですか。  
真由子 「俺は演劇のことわからないから」って。  
怜美 何で演劇部の顧問やってるんでしょう。  
真由子 本人の希望ではないらしいよ。  
怜美 先生も大変ですね。  
真由子 仕事だからね。いろいろとあるよ。  
怜美 ・・・雨、強くなってきましたね。  
真由子 ほんとだ。  
怜美 こういう時って帰りたくなくなりませんか？

真由子 え？

怜美 どうせだったら、このまま校舎に閉じ込められて、泊まっちゃえたらいいのに、って。

真由子 怜美らしい。

怜美 私だけですかね？

真由子 ……私もあるか。

怜美 ですよね。

二人は少し笑う。

怜美 ・・今日は兵藤さん、来ませんでしたね。

真由子 まあ、見学だからね。

怜美 入ってくれますかね。

真由子 どうだろう。怜美から見てもどうだった？

怜美 ええ・・よくわからないです。

真由子 そっか。

怜美 別に演劇部でなくてもいいかもしれないっていうか。

真由子 自分の居場所を探してる？

怜美 そんな感じですか。

真由子 怜美は？

怜美 私は演劇が好きでここに来てますから。ここが私の居場所です。

真由子 迷いがないな。

怜美 これに関しては自信があります。他のことは迷ってばかりなんですけど。

真由子 例えば？

怜美 明日までの課題をやるうか、マンガ読もうか。

真由子 課題から先にやっつけ。

怜美 ですよね。

佳菜絵と久美香が来る。

佳菜絵 とりあえず、軽くおさらいしておきました。

真由子 ごめんね。稽古に付き合えなくて。

佳菜絵 大丈夫です。

久美香 優里もないし。

佳菜絵 ・原稿の方は？

真由子 大体できた。

佳菜絵 よかったですね。  
久美香 佳菜絵、さっきの話。

佳菜絵 ああ。

真由子 何？

佳菜絵 代役なんですけど・・

久美香 優里がこのまま来られないんだったら、怜美に代役やってもらおうって。

真由子 うん。それは私も思ってた。万一の時はね。

怜美 え？ 優里先輩、昨日から休んでますけど、何かあったんですか？

佳菜絵 わかんないけど、念のためにね。

真由子 怜美は大丈夫？

怜美 やりたいです。

真由子 稽古してもらってても、もし優里が出られるようだったら、状態によるけど

怜美 わかってます。優里先輩が出られるなら、先輩に出てもらった方がいいですね。

真由子 ごめんね。

怜美 大丈夫です。だって代役やるだけでも、すごい勉強になるじゃないですか。

佳菜絵 怜美、あんたいい子だね。

怜美 佳菜絵先輩、ほめ過ぎです。

久美香 まだ時間大丈夫なら、怜美やっとく？

怜美 え？ いいんですか？

久美香 いいですよ。先輩。

真由子 うん。少しくらいだったら。

久美香 じゃあ、選択教室に戻って20分もらいます。

真由子 わかった。

久美香 怜美、台本持って。

怜美 わかりました。

久美香と怜美は去る。

真由子 こういう時の久美香はすごいね。

佳菜絵 はい。

真由子 優里はどうなの？

佳菜絵 ・自信無くしてるっていうか・・・

真由子 無理に役者やらせちゃったのがまずかったかな。

佳菜絵 いえ、本人は役者やるのは嫌じゃなかったらしいです。  
真由子 そうなの？ じゃあ何で？  
佳菜絵 ・・・久美香に「ちゃんとやれ」って言われて・・・  
真由子 そう。でも久美香もそんなこと言うなら、先週までみたい  
に遅刻しないで「ちゃんとやれ」だよ。  
佳菜絵 ・・・はい・・・  
真由子 今週はちゃんと来てるけど。本番近くならないとダメなの  
かな。  
佳菜絵 先輩。  
真由子 ん？  
佳菜絵 私、嘘つきました。  
真由子 え？ 何を？  
佳菜絵 久美香が補習だった。  
真由子 ああ、あれはよく知らないでフォローしようと思って言っ  
た事でしょ。そんなに気にしないで。  
佳菜絵 いえ、遅刻の原因を知ってて嘘つきました。  
真由子 そう。・・・その遅刻の原因は、話せること？  
佳菜絵 ・・・はい。  
真由子 一応聞いておこうかな。  
佳菜絵 ・・・二年生の中で、声優サークルを作ろうって話があって。  
真由子 へえ。  
佳菜絵 久美香、そこに顔出してて。  
真由子 そうか。久美香、そういうのに興味持ってたもんね。  
佳菜絵 でも、もうそっちは辞めたって。  
真由子 そう。  
佳菜絵 「思ってたのと違った」って。「稽古がしたい」って。  
真由子 うん・・・  
佳菜絵 「自分は劇部の方が合ってる」、「劇部が好きだ」って。  
真由子 ・・・そう。  
佳菜絵 すいません。また嘘つきました。「劇部が合ってる」「劇部  
が好きだ」は言ってます。すいません。  
真由子 でも、佳菜絵はそう感じたんだよね。  
佳菜絵 ・・・はい。  
真由子 久美香のサブテキストを読んだんだ。  
佳菜絵 自分勝手な読み方ですけど。  
真由子 でも、私もさっきの久美香を見てたら同じものが読めたよ。  
久美香の心の声が。  
佳菜絵 ・・・

真由子 寄り道して戻ってきたら、気持ちが強くなってるってことはよくあるから。

佳菜絵 今の久美香は大丈夫です。

真由子 うん。・・あれ？

佳菜絵 え？

真由子 あそこ？

真由子は柵の方へ行く。佳菜絵も。

佳菜絵 ここも雨が伝ってきてます。

真由子 本だけは避難させよう。

佳菜絵 はい。

二人は柵の本を机の上に移動させる。  
移動させている最中、佳菜絵の手が止まる。

佳菜絵 私も、自信がなくなっつて。

真由子 やだな、みんな自信無くして。

佳菜絵 すいません。なかなか先輩や久美香みたいには

真由子 私だって自信満々じゃないよ。自分より才能あると思っ

頼ってたみゆきがいなくなっつて。不安だし、みゆきの代わりが

務まるかって言われると自信ない。自信が無いから「大丈夫」

って自分に言い聞かせてる。そうやって振舞ってる。きつと久

美香もそうじゃないかな。じゃなかったら久美香も、この間み

たいにはならないよ。

佳菜絵 はい。

本の移動が終わる。

真由子 とりあえず、これでいいかな。

佳菜絵 はい。じゃあ、私も稽古に付き合ってきます。

真由子 ありがとう。

佳菜絵は去る。

一人残る真由子。

机の上の本の山からノートを取り出して開く。

真由子 「登場人物が必ずしも、心に思っていることを口にしてい



るとは限らない。むしろ口に出していない気持ちの方が重要だ。心の声、サブテキストを読み。そしてそれは、行動で表現するしかない。by かんな」

真由子はノートを戻し、机に向かって再び原稿に目を通す。  
未来が入ってくる。

真由子 兵藤さん。

未来 おはようございます。

真由子 今まで校内にいたの？

未来 はい。

間。

真由子 どう？ 演劇部は。三日間見学して。

未来 はい。

真由子 毎日来てくれるから、みんな期待しちゃってるよ。

未来 すいません。

真由子 謝ることじゃないけど・・・今日ね、担任の井上先生に声かけられた。「兵藤さん、演劇部に見学に行ってるけど、どう？」って。

未来・・・

真由子 「どう？」って言われてもね・・・「毎日見学に来てくれますよ」って言っといた。「見学なのに紙貼りまで手伝ってくれました」って。井上先生、安心してた・・・クラスではあんまりしゃべらないんだって？

未来 クラスでは、あまり自由になれません。隙を見せられないっていうか。

真由子 ここでも隙見せてる様には見えないよ。

未来 一応上下関係はありますけど、それほど緊張しなくていいっていうか。

真由子 私に威厳が無いからかな。

未来 そういう意味じゃないんです。先輩は、人間が出来てるっていうか。

真由子 いい意味にとっておくよ。

未来・・・真由子先輩は、久美香先輩のこと「生意気だ」って思わないですか。

真由子 え？

未来 この間なんか、真由子先輩に逆らって。

真由子 あれはさ

未来 後輩なのに口答えするし、最後には話も聞かずに帰っちゃったり。ムカつきませんか？

真由子 ・ ・ ・ 正直ムカつくこともある。でも、久美香はそれほど間違っただけのことではないし。

未来 でも、部をまとめなきゃいけないのに、あんなわがまま

真由子 まとめなきゃいけない。だけど、納得しないでまとめられるわけじゃないよ。うちは人数少ないから尚更。

未来 そうですね。

真由子 ・ ・ ・ 兵藤さんは居場所を探してるの？

未来 え？

真由子 別に演劇部でなくてもよかつたんでしょ。

未来 ・ ・ ・ すいません。

真由子 でも、こうやって来てくれるっていう事は、兵藤さんにとつてここは居心地のいい場所なんだよね。

未来 演劇のことはわかりません。でも、ここはいい部活だと思います。

真由子 ありがとう。でもね、人によって「いい部活」って違ってて。 ・ ・ ・ だからここは、吹部よりいい部活ってわけでもないし、私も田端より人間出来ているわけじゃないの。

未来 ・ ・ ・

真由子 田端は田端で気にしてると思うよ。

未来 田端先輩は直接関係ないんです。

真由子 でもあの子は吹奏楽部の部長だから。

未来 ・ ・ ・

真由子 みんなはもうちよっと練習してるけど、こんな天気だし、今日は帰った方がいいよ。

未来 はい。 ・ ・ ・ お先に失礼します。

未来は出ていく。

真由子は原稿を持って部屋を出る。

誰もいなくなった部室。

少しの時間経過。雨の音。

みゆきが優里の手を引いて部室に入ってくる。

みゆき まだ、真由子達いると思うから。

優里 もういいんです。

みゆき 「もういい」って、辞めるって事？  
優里 はい・・・。私、みんなに迷惑かけてるんです。  
みゆき 勝手に思い込んでないで、ちゃんとみんなに話してみよう。  
優里 しなくていいです。

間。

みゆき 一年前、優里たちが入部した時のこと覚えてるよ。久美香  
と佳菜絵は「演劇やりたい」って言って入ってきたけど、優里  
は「自分を変えたい」って。

優里 ・ ・ ・

みゆき 真由子が「役者やったら変わるかもよ」って言ったら、  
「役者は無理だから裏方で」って。

優里 すいません。それがおかしいんです。

みゆき おかしくないよ。新しいことに挑戦しようと思うことは、  
おかしい事じゃない。それにこの一年で優里は変わったよ。

優里 ・ ・ ・

みゆき 優里はさ、放課後、部活もないのに部室に来てること多か  
ったじゃない。

優里 クラスより部室の方が落ち着くんで ・ ・

みゆき この場所が好きなんですよ。

優里 でも、もう辞めるんです。

みゆき 辞めるなら辞めるで、ちゃんと真由子には言わないと。

優里 ・ ・ ・

みゆき 真由子を呼んでくるから。ここにいて。

優里 は鞆を置く。

みゆき は部屋を出る。

雨の音。

優里 はノートを手に取り、開く。

校内放送が聞こえる。

校内放送 「先ほど大雨警報が発表されました。校内に残っている  
生徒は速やかに下校してください。繰り返しです。先ほど大雨  
警報が発表されました。校内に残っている生徒は速やかに下校  
してください。」

久美香が来る。

優里　！　久美香・・・

久美香　・・・

優里　・・・ごめん。

久美香　何を謝ってるの？

優里　迷惑かけてるから。

久美香　そう思ってるんなら部活に来なよ。

優里　ごめん。

久美香　謝ればいいってもんじゃないでしょ。

優里は鞆を手にして出ていこうとする。

久美香は優里の進路に回り込んでそれを止める。

優里　私は久美香みたいになんかできないの。

久美香　そう簡単にうまくなれるわけないし、人と比べる必要ないでしょ。

優里　だからもう辞めるから。

久美香　役者やりたいんじゃないの？

優里　私にはやれないってわかったんだ。

久美香　勝手に決めるなよ。

優里　久美香だってそう思ってるでしょ。

久美香　私は「やりたいなら、やれ」って言ってる。

優里　やりたい気持ちがあっても、やれない人もいるんだよ。

久美香　「気持ちがあっても行動に出さなきゃ見てる人にはわからない」。真由子先輩がいつも言ってるでしょ。

優里　でも、それは舞台の上の話で。

久美香　一緒だよ。

久美香は机の上のノートに目をやる。

久美香　「舞台の上の物語は、現実世界と合わせ鏡。舞台上で起きる出来事は全て、形を変えて現実世界でも起こりうる」

優里もノートに目をやる。

久美香　優里、しょっちゅう読んでるじゃん。私たちは単なる夢物語をやってるわけじゃない。

優里　・・・

久美香 優里の「目的」と「障害」は何？  
優里 え？

久美香 風間優里が、この場に登場している目的は何？

優里 ・ ・ ・

久美香 役作りと一緒にだよ。ここで何がしたいの？ 考えて。

優里 ・ ・ ・「変わりたい」？

久美香 うん。それが風間優里がこの場にいる目的。だとしたら、その目的を阻む障害は、何？

優里 障害 ・ ・ ・

久美香 私？

優里 ・ ・ ・違う。久美香は「変われ」って言うてる。

久美香 そう。私は風間優里の目的達成のための協力者だ。

優里 じゃあ ・ ・ ・

久美香 障害は？

優里 障害は ・ ・ ・私の中にいる。

久美香 そう。優里の中にいる魔物を倒すの。

優里 魔物。

久美香 私は自分の中にいる魔物を、より具体化するためにそいつに名前を付けている。ガンドン。

優里 ガンドン？

久美香 手強そうでしょ。私の目的は「うまくなりたい」。だけど私の中のガンドンは、目的達成のための協力者にすぐ攻撃的になる。そして排除しようとする。だから私はそいつを倒すために、真由子先輩に謝ったり、優里を説得したりしてる。

優里 ・ ・ ・

久美香 優里の中のガンドンは？

優里 ・ ・ ・私の目的は「変わりたい」。だけど私の中のガンドンは、私にはできないって言って、いろいろ理由を付けて、逃げる。

久美香 そいつを倒すためには？

優里 ・ ・ ・「自分にはできる」って思う。

久美香 思うだけじゃ足りない。具体的な行動は？

優里 稽古に出る。

久美香 そして？

優里 中途半端に動かない。迷ったら一歩踏み出す。

久美香 間違えるかも、なんて恐れるな。

優里 「稽古場では失敗していいから」って、真由子先輩が ・ ・

久美香 真由子先輩もいるんだから安心して一歩踏み出せ。

優里 うん。

少し前からみゆきが部室の出入り口で様子を見ている。

みゆき 話は出来た？

優里 はい。

みゆきは佳菜絵と怜美を部屋に入れる。

優里 ごめんなさい。明日から稽古に来ます。

佳菜絵 うん。

みゆき さあ、みんな。警報出てるから、もう帰ろう。

怜美 真由子先輩は？

佳菜絵 原稿無いから、きっと職員室だ。

久美香 私、呼んできます。

優里 私も。

久美香 え？

優里 先輩に謝らないと。

久美香 ・・行こう。

優里と久美香は部屋を出ていく。

佳菜絵 怜美の初舞台はお預けか。

怜美 でも、一番いい形になったじゃないですか。

佳菜絵 怜美、あんた本当にいい子だね。

怜美 本番の舞台に出たくなかったか？って言われれば、出たいですけど、稽古するだけでも楽しいですよ。私は。

佳菜絵 すごいね、怜美は。私は稽古を積み重ねてる間に、時々「もう嫌だ」って思うことがあるよ。

みゆき そうか。

佳菜絵 あ、すみません。

みゆき いいよ。誰でもそう思う時はある。

怜美 そうですよ。私だってたまにありますよ。

佳菜絵 一年生にフォローされてる、私。

みゆき ねえ、稽古って何度も何度も重ねるじゃない。

佳菜絵 はい。

みゆき 何でだと思う？

佳菜絵 台本に書かれた状況がちゃんと自分の中で信じられるようになるため。

みゆき 模範解答だな。

怜美 失敗しないように？

みゆき おお。

怜美 「一番の舞台では失敗できないから、稽古場で失敗しておくように」って真由子先輩が。

みゆき うん、そうだね。でも最近思うんだ。それだけ稽古を積み重ねていても、失敗するときはするじゃない。

佳菜絵 先輩、身も蓋もない言い方しないでくださいよ。

みゆき どこまで重ねれば失敗しないか？ って、無理だよ。

怜美 はい。でも失敗する確率は低くなると思います。

みゆき でも「0」にはならない。

怜美 そうですけど。

みゆき 本来は失敗前提なんじゃないかって。

佳菜絵 失敗を認めちゃうんですか？

みゆき だって失敗を認めないって。それ、一回ミスしたら終わりだよ。

佳菜絵 すごいプレッシャーだ。

みゆき だから万一本番で失敗してもいいように、稽古はするもんだと思うんだ。

怜美 意味が分からないんですけど。

佳菜絵 失敗に慣れるってことですか？

みゆき 慣れなくてもいいんだ。ただ、失敗を経験してるかどうかって大事だなって思う。特に学校卒業したらね。

怜美 卒業しても、失敗するときはするんですよね？

みゆき もちろん。だから、学生のうち出来るだけ経験しておく

佳菜絵 正しいんじゃないかな。

佳菜絵 私、今、すごいこと思いました。

みゆき 何？

佳菜絵 「失敗した」って言うとマイナスに聞こえるじゃないですか。でも「経験値が上がった」って言い換えるとプラスに聞こ

えますよね。

みゆき お、いいね。

怜美 「佳菜絵先輩は、経験値を350上げた」とか。

佳菜絵 ・・私、経験値ばかり上がり上がっていきそうだな。

未来が入って来る。

怜美 兵藤さん。

佳菜絵 警報出たから、もう今日は部活終わりなんだ。

未来 はい。．．．部長さんは？

佳菜絵 もうすぐ戻ってくると思うけど。

みゆき 真由子に話があるの？

未来 はい。さっき部長さんに変なこと言っちゃって．．

怜美 変な事？

真由子、久美香、優里が戻ってくる。

真由子 あれ？ 兵藤さん？

未来 ．．．

みゆき 真由子に話があるって。

真由子 何？

未来 ．．．私、中学の時から吹部でクラリネットをやってました。

でも、中学で教わったことと高校の部活でやってることがちよ

っと違う気がしたんで部長に質問したんです。そうしたら．．

真由子 「生意気だ」って？

未来 はい。二年生の先輩に言われました。田端部長には言われて

ないです。

久美香 いろんな先輩いるからね。

未来 それで、居づらくなって、逃げました。だから、別に演劇部

でなくてもよかったです。井上先生に言われて来ただけなん

です。すいませんでした。

真由子 いいよ。

みゆき 吹部に戻る気はないの？

未来 今は、そんな勇気はないです。

優里 勇気あるよ。兵藤さん、ここに來てるじゃん。

未来 それは先生に言われて

優里 言われただけなら、一回顔出して終わりでもいいでしょ。こ

んな、全然知らない人ばかりのところ。なのに、來てる。

行動してるんだから。

未来 それは．．．さっき部長さんに言われた通り、居場所がほしか

ただけなんです。そんな理由じゃダメだと思っただけですけど、

新しく何かやれそうな気がしたんです．．．勝手なこと言っ

すいません。

久美香 なら演劇部に入ったら？

真由子・佳菜絵・優里 え？

久美香 やりたいんだったら、やればいい。中途半端だったらやめ



未来 ……ここにもいいんですか？

部員は真由子を見る。

真由子 一つ条件を出してもいいかな？  
未来 はい。

真由子 演劇部に入って、ちょっとでも勇気が出たら。改めてちゃんと田端部長と話をすること。大人数の部活は大変なんだよ。少しでもあの子の気持ちを軽くしてやって。

未来 わかりました。

真由子 明日は土曜日だけど、文化祭一週間前で部活あるから来る？

未来 いいんですか？

真由子 青島先生も来るだろうから、そこで正式に明日から演劇部員ってことでもいいかな。

未来 はい。よろしくお願いします。

怜美 よかったね、兵藤さん。

未来 未来でいいよ。

怜美 よろしく…未来。

未来 よろしく…怜美。

真由子 じゃあ、みんな警報出てるから帰ろう。

みんな はい。

真由子 おつかれさま。

みんな お疲れさまでした。

真由子 戸締りしとくから。

一・二年生は鞆を持って帰る。  
残る三年生。

真由子 自信無くすな。

みゆき え？

真由子 みゆきが来たら、何かいろいろと解決しちゃってさ。

みゆき 偶然だよ。

真由子 偶然を呼び寄せるんだよ、みゆきは。

みゆき 何、それ。

真由子 ……この間「裏切者って思ってる？」って聞いてきたじゃない。

みゆき うん。

真由子 冗談ぽく返したけど、凶星だったんだ。

みゆき そっか。

真由子 みゆきに誘われて演劇部に入ったのに、私より頼りになるみゆきに先に辞められちゃって。梯子外された感じ。

みゆき ごめん。

真由子 わかっているよ、仕方ないことだし、みゆきも辛いだろうって。でも、私は私で不安でさ。三年生一人って、気が抜けないよ。緊張しっぱなしっていうの？ 時々辛くなって「裏切者！」って大声で叫びたくなっちゃう。．．．そういう時、救われたのは発声練習。発声してる振りして心の中では「裏切者！」って叫んでた。

間。

みゆき 私、ほんとに真由子と一緒に演劇部続けたかった。家のことだから仕方ないって、物わかりのいい人みたいになってたけど、本当はすっごくわがまま言いたかった。

真由子 うん。

みゆき 放課後。本当は部活に行く時間なのに自分は下校して。正門を出てバス停で待ってる間、かすかに聞こえるんだよね、みんなが発声練習してるのが。他のバス待ってる子たちには聞こえないかもしれない、かすかな音。でも、私にはちゃんと聞こえる。その音を聞きながら、心の中で一緒に発声練習をするんだ。

みゆきは発声練習を始める。

途中から真由子も一緒に発声練習をする。

雨の音、大きくなる。

発声練習を終える。

雨の音、小さくなる。

みゆき ．．．でも思ったんだ。こんなことでもない、自分がどんなに演劇が好きなのかって気付かなかったかもしれない、って。

真由子 みゆき．．

みゆき こんなに好きなんだから、またいつか、きっとやり始めるだろうって．．．だから今は物わかりのいい人を演じておく。

真由子 ……じゃあ、私も、頼れる上級生を演じておくよ。  
みゆき うん。よろしく。  
真由子 任せて。

校内放送が聞こえる。  
それを聞きながら二人は帰り仕度をする。

校内放送 「先ほど大雨警報が発表されました。校内に残っている生徒は速やかに下校してください。繰り返しです。先ほど大雨警報が発表されました。校内に残っている生徒は速やかに下校してください。…っていうか、みんな、警報出てるんだからもう帰るよ。そうしないと私が帰れないでしょ！」  
真由子 安藤が怒ってる。

二人は笑う。  
場面転換。

## 〈五場〉

土曜日。  
佳菜絵、久美香、優里、怜美がバケツを片付けたり、本を棚に戻したりしている。

佳菜絵 天気いいな。  
優里 台風一過って感じ。  
怜美 そうですね。昨日は、台風一家がやってきたみたいでしたもんね。

久美香 怜美、使い方間違ってるから。

怜美 え？

佳菜絵 「いっか」ってどういう漢字かわかる？

怜美 数字の「一（いち）」に「家（いえ）」っていう

久美香 ああ、台風が一族でやってくる。

怜美 そうです。

優里 そりゃ大変だ。

怜美 え？ 違うんですか？

真由子と未来が来る。  
未来はみんなと同じ部活のTシャツを着ている。

佳菜絵 ほんとにあつたんだ。

真由子 青島先生が、自分の願望で余分に二着注文してたんだって。

久美香 先生のことだから、単に注文し間違えたんじゃないの？

佳菜絵 ありうる。

怜美 でも二着ってことは？

真由子 もう一人入れなきや？

優里 あ、

久美香 何？

優里 新しく、みゆき先輩が書いてる。

優里は、見ていたノートを久美香に渡す。

久美香 「演劇は、人間を知る学問である。そして自分を知る学問でもある。生きていくのに必要な学問だ。だから、動機が何であれ大丈夫。下手でもやりたければちゃんとやれ。ブランクが出来ても気にするな。必ず私は、どんな形でもまた演劇をやる。」  
by みゆき

久美香は真由子にノートを渡す。

久美香 次のスペースは真由子先輩ですからね。

真由子 プレッシャーだな。

佳菜絵 じゃあ選択教室に移って稽古しようか。

怜美 天気いいから土手で発声やりましようよ。

優里 川、増水してるよ。

怜美 そうか。

久美香 台風一家が大暴れしたからね。

怜美 未来、台風一家の「いっか」って字、知ってる？

未来 数字の「一」に「過ぎる」っていう字じゃあ？

怜美 ああ。。。だよね。。

など、会話をしながら部屋を出ていく。

残った真由子は、ノートをしばらく眺めてから棚に戻す。

真由子も部屋を出ていく。

誰もいなくなった部屋。放課後の音。

遠くで発声練習の声が聞こえる。